佐久地方の古木を訪ねて

森の巨人 佐久町のコブ太郎（トチノキ）

トチノキ（栃の木・橡）別名オオトチ、クリトチ　トチノキ科トチノキ属
日本全国の山地に自生する落葉高木でマロニエ（セイヨウトチノキ）と同属である。マロニエは果実にトゲがあるが、トチノキにはない。開花で白日照、胃、打撲、捻挫に効果有り。
用途　床木、街路樹、建築、器具、鉛、鉄、楽器など

佐久町の茂来山麓久保沢登山口から国有林内の登山道を約三十分ほど入ると右側に見える小さな沢筋に、その巨人は生育しています。幹周り5・3m、樹高22m、推定樹齢二百五十年といわれています。

巨人の前にロープとその大きさには劣るものを感じます。幹を測ると幾つもの大きなコブができていて、これが「コブ太郎」と言われる由縁です。

沢筋はトチの実で、周辺にはコブ太郎のほかに何本かの巨木を見ることが出来ます。

栃の実は洗剤や薬用のほか、饅頭など食用になり十年くらい保存が出来るため、昔は何年に一度の飢饉に備えて穀類などに保存されていたといい、長い間は採もされずに巨木が残っているのはそのためでしょうか。

コブ太郎は平成十二年に林野庁の「森の巨人たち百選」に選ばれました。これを契機に「茂来山コブ太郎（トチノキ）保存協議会」（会員約五十五名）が設立され、豊かな自然の指標であるコブ太郎を健全な姿で次世代に残していくことを目的に保護活動に取り組んでいます。